

高松市ユニバーサルデザイン基本指針骨子案についての御意見等

No	意見等
1	基本指針の理解は、言葉の意味が容易に理解できることから始まる。
2	いくらハード面を充実しても人によって能力の違いがあり、全ての人を100%カバーすることは難しい。カバーできない部分は、気軽に人の手を借りることができるようにすることが必要である。
3	こころ・ソフト・ハード面における具体的な指針案を策定するとよい。
4	健康と生きがいの2つを目標に、ハード・ソフト・心の面から考えていったらよい。
5	心のユニバーサルデザインの意義や必要性を世間に認知してもらい取り組みを進めていくことが、高松市の住みやすいまちづくりに大切である。
6	高松らしさ、お接待の心や、助け合う、譲りあう精神が生かされるようなものにしてほしい。
7	他市よりも進んだ指針づくりをするなら、「役割」「期待」よりも強制するような言い回しをすべきである。
8	極力多くの市民の参加（アンケートを募るなど）を求める。
9	より多くの人の意見を聞き、情報を得るとよい。
10	高松市内の各方面の実情を知ること・把握することが大切である。
11	自由に外出できるよう、公共交通・代替手段などを検討してほしい。
12	超高齢社会のためのまちづくりの基本的な基盤整備としてユニバーサルデザインを推進してほしい。
13	コンパクトエコシティの推進にユニバーサルデザインを取り入れることで、コンパクトエコシティがより円滑に効果的に進む。
14	ユニバーサルデザインという言葉そのものの、市民への理解や浸透が必要である。
15	ユニバーサルデザインという言葉が、日本語で短く、分かりやすいものに置き換えできれば、普及が進むだろう。
16	経済人・文化人など、各方面でリーダーシップを発揮する人を核にして推進するとよい。
17	「健常人」対「配慮の必要な人」の相互理解だけではなく、配慮の必要な人同士の相互理解も大切である。
18	相互に理解しあえる環境づくりをする必要がある。